

観葉植物の手入れ

Q. 観葉植物は種類によって夏の手入れが違うと思います。代表的な種類の育て方を教えて下さい。

A. 夏こそ観葉植物のシーズンです。以下にその手入れなどを記します。

1. カラジューム

暑さには強いのですが、直射日光に当てると弱ります。ヨシズか遮光ネットの半日陰だと美しい葉が長もちします。水やりは朝夕行いますが、夜も葉に霧吹きでみずをかけてやると元気に育ちます。強い風にはあてないようにします。



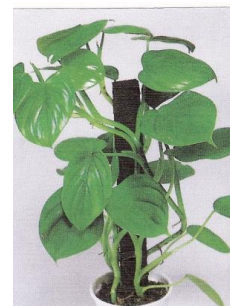
2. クロトン

戸外の強い日光にじゅうぶん当てると葉の色が鮮やかになります。水はやり過ぎるほど与えます。水が少ないと葉が落ちますから気をつけて下さい。葉の裏側にハダニやワタカイガラムシがよくつきますので、殺ダニ剤（ダニトロンフロアブル、ダニ太郎など）や殺虫剤（オルトラン、スミチオンなど）を散布します。



3. フィロデンドロン

葉水を1日に2～3回与え、2週間に1回、1000倍の液肥を灌水を兼ねて施しますと見違えるようになります。乾燥するとハダニの発生が多くなりますので、殺ダニ剤を散布して防ぎます。



4. モンステラ

直射日光には弱く、葉焼けして黄色くなるので、半日陰にします。葉水をよく与えるとともに、葉をよく見てカイガラムシがついていたらブラシなどでこすり落とし、殺虫剤をかけて防除します。



5. ポトス

戸外でも育てられますが、“ライム”種は柔らかな光線で葉が鮮やかな黄緑色になります。つるを登らせると葉が大きくなり、垂らすと葉が小さくなります。ときどき葉水をやり、2週間に1回、1000倍の液肥を与えます。



ダイコンのタネまき

Q. ビニル袋を使ってダイコンをつくってみたいと思います。コツは？

A. タネをまく時期にふさわしい品種を適期にまくことです。

【ポイント】

30cm以上の深さの容器を使い、石などを除いた細かい土にまきます。早めに間引きし、肥料切れや乾燥を防いで育てます。

1. タネまきの時期

9月上旬～10月上旬。

2. 品 種

耐病総太り、大蔵、聖護院

3. 容 器

培養土や肥料の空き袋など深さ30cm くらいのもの。

4. 用土と元肥

赤玉土(小粒)：バーミキュライト=3：1の混合。

細かな市販培養土でもよい。

この用土 10L に苦土石灰 10g、化成肥料 20g を混ぜ込みます。

5. タネまき

1カ所 5～6粒の点まきとします。肥料袋で3～4カ所。株間 25cm。

6. 間引き

本葉 2～3枚の頃と本葉 5～6枚頃、早めに間引き 1カ所 1株とします。

7. 追 肥

1株に化成肥料を 3g、間引き後から 20日おきに 3回与えます。最終は 10月下旬とします。

8. 増し土

間引き、追肥の後、倒れないように増し土をします。

9. 水やり

乾燥すると生育が鈍り、ス入りの原因にもなるので適湿を保ちます。

10. 収 穫

タネまき後、70～80日 で収穫します。

遅れるとスが入って品質が悪くなります。

